

**星空
ワークショップ**

8月22日(火)
 旧暦七夕の星空
 観望会



あいにくの曇り空、

連日三十五度超の猛暑が続いていた昨年の八月二十二日、この日は夕方に雷雨となり、少し気温が下がった午後七時から、下布田遺跡に隣接する郷土博物館分室で「旧暦七夕星空観望会」が開催された。実はこの催し、下布田遺跡の史跡整備に際して広く市民に関心を

持つてもらおう目的で、令和五年度中に全七回計画されている市民ワークショップの三回目にあたるもの。市民ワークショップの中には整備計画プロジェクトの検討や意見交換と言ったお堅い内容もあるのだが、下布田遺跡に親しんでもらう観点から遺跡に生えてい



【布田小秋まつり】



【地域運動会】



【わくわくひろばまつり】



【オモロー 飯盒炊飯】

続々と復活

地域イベント

ハッピーうさこ
 キャラクター紹介



当地区協が発足した当時に、布田小学校で飼っていたうさぎをイメージシンボルにしました。

能登半島と日航機

元旦から能登半島地震のニュースが飛び込んできた。厳冬期に倒壊した家屋の下敷きになって亡くなった多くの方々に、深くお悔やみ申し上げます。同時に、今もなお日常生活に戻れない被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

次の日、日航機と自衛隊機の衝突で燃えあがる機体から日航機乗員乗客全員が無事だったというニュースと機内の映像。乗員の冷静な判断と対応、座席を立たずにその指示に従う乗客の信じる力と忍耐力が相まっての大脱出劇。それも日頃の厳しい訓練があったからこそのものであったに違いありません。

ここ数年はコロナ禍でこの地域でも防災避難訓練を実施できまじりませんでした。地震、浸水害はいつ起きてもおかしくありません。いざというときに、日頃の地域のネットワークを生かした災害対策ができるよう来年度から防災訓練を復活させたいと思います。

皆さんが愛するこの地域の願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会
 会長 依田 耕児

みまもり安心
 アテンダント
 急募!

朝の登校時の通学路
 みまもりボランティア

布田小学校への朝の通学時のみまもりボランティアを下記2箇所(1名ずつ)で急募しています。

朝7時45分～8時15分の約30分間、通学する児童を要所の道路に立って見守ります。

- ①布田小学童前横断歩道付近
- ②白山宮神社横断歩道付近

毎日だけでなく結構ですのでご関心のある方はどうぞお問い合わせください。

(布田小副校長 石津 481-7652)

10筋

10の筋カトレーニング
 ……フレイル予防……

【2024年4月～9月日程】

- 4月 12日 / 26日
- 5月 10日 / 24日
- 6月 14日 / 28日
- 7月 12日 / 19日
- 8月 9日 / 23日
- 9月 13日 / 27日

10時～11時半、参加申込不要、直接会場(布田南部自治会館)に来てください。



10筋を紹介した動画もありますので覗いてみてください。

漢検
 サポーター

地域学校協働本部

2月17日(土)に布田小にて第5回日本語漢字検定が行われました。この広報誌で募集した漢検サポーターのご協力をいただいて102名の布田小児童が受検。年2回開催のお手伝いいただける方を募集しています。詳細は地学協コーディネーター 山本(090-9140-1891)



写真は第3回漢検(昨年2月18日)の受検風景

【ハッピー子ども食堂】が4年ぶりに復活



一月二十七日(土)、ハッピー子ども食堂が開催されました。コロナ禍での中止から4年ぶりの復活です。会場の自治会館にはウェブで事前に申込をした子どもたち約五十名が手作りのカレーを美味しく食べました。会場の都合により人数制限があるため、参加対象が限定されていますが、少しずつ参加定員を増やしていけたらと思っています。久しぶりに集まったボランティアの皆さんも大変楽しそうに調理配膳をしていただき笑顔の一日でした。



はっぴーなきずな

PTAの活動を通して、多くの方が地域の為に様々な活動されている事を知ることができ、一緒に活動させていただく機会では、学びの多い時間を過ごすことができました。自分が出来ることは何か?改めて考えるきっかけとなりました。(長谷川みお)

布田小学校学童の毎朝の通学見守りを始めてから12年が経ちました。当時の一年生の皆さんはもうすぐ成人ですね、私も後期高齢者の仲間入りです。毎朝出会った皆さん、これからも一緒に頑張りましょう。(山本光則)

運営委員募集中!

- ★年6回の運営委員会
 - ★防災教育の日 避難所訓練
 - ★地域の安全安心活動
- お近くの上記運営委員にお尋ねください



布田小地区ハッピータウン協議会
 ホームページ
<https://happy-usako.jp>
 スマホ対応で見やすくなりました

調布のボランティアの雄、ここにあり！



下布田遺跡 いきもの係 シンボルマーク

朝日さんは石原小から調布中学、生まれたのも富士見町の産院、という生粋の調布っ子。当時、調布中学で支援級の生徒さんと先生に共感されて、考え方や精神面で大きな影響を受けられたとのこと。

大学では福祉関係の学科を専攻され、卒業間近の頃に希望の家の前身の福祉作業所で実習を行った際、中学で知り合ったあの生徒さんと先生に再び出会い、運命を感じそのまま就職、調布市社会福祉協議会（社協）の職員になられた。現在、希望の家は市の事業である本場と分場に加えて、二〇一三年に社協独自事業の希望の家

地域の活躍びと

希望の家深大寺に朝日さんをお訪ねしたところ、あいさつ代わりにと渡された名刺の肩書には、下布田遺跡いきもの係とあった。正式な役職名ではなさそうだが、すっかりお馴染みになった下布田遺跡エコ除草の主役、ヤギさん達の世話人を買って出た下布田遺跡だ。お会いしていきもの係に至った経緯などを聞きすると、まさに持って生まれたようなボランティア魂と、今必要とされるもの・ことを見分ける鋭い感覚をお持ちの方だった。

朝日さんは石原小から調布中学、生まれたのも富士見町の産院、という生粋の調布っ子。当時、調布中学で支援級の生徒さんと先生に共感されて、考え方や精神面で大きな影響を受けられたとのこと。

大学では福祉関係の学科を専攻され、卒業間近の頃に希望の家の前身の福祉作業所で実習を行った際、中学で知り合ったあの生徒さんと先生に再び出会い、運命を感じそのまま就職、調布市社会福祉協議会（社協）の職員になられた。現在、希望の家は市の事業である本場と分場に加えて、二〇一三年に社協独自事業の希望の家



古川さんの七夕の歴史のお話

（わし座のアルタイル）と織姫（こと座のベガ）は、なかなか中天の見やすい位置に登って来ない。それが旧暦の七月七日、2023年の八月二十二日頃になるとちょうど真上の見上げた辺りに輝き、加えて七日月、つまり新月から七日目の月、三日月よりも太くなった舟形の月が、天の川に重なって見えるのだ。これこそが古代から歌にも詠まれた、織姫と彦星が年に一度だけ、天の川を月の舟で渡って（どちらが乗るのだろう？）逢いに行くというロマンスチックな伝承の由来なのだ。下布田遺跡周辺で暮らしていた縄文人も、旧暦七月上旬の夜空を見上げると明るい星二つが天の川を挟むように輝き、その傍らに舟の形をした月が漂う天体ショーを眺めていたことだろう。

残念ながら八月二十二日当日の夜は曇天で、天体ショーを見ることはできなかった。（文・藤田秀雄）

白山宮こども祭り

四年ぶりの開催 太鼓・おみこしの巡行も



猛暑の夏がまだまだ続いていた昨年九月九日と十日の週末、当地区協のほぼ中心に位置する白山宮で2019年以来四年ぶりとなるこども祭りが実施された。お祭り運営の中心を担う布田南部自治会役員の方々にとっては四年ぶり、「帰って来た白山宮こども祭」と大書されたポスターそのままに、四年前のことを思い出しながら準備に余念がなかった。

特に子供たちが担ぐおみこしは、2020年に調布市のコミュニティ助成事業から補助金を受けて、約五十年ぶりに大修繕を行い見違えるようにきれいになったものの、コロナ禍のため三年間祭礼の中止が続き、このお祭りが初のお披露目となった。

九日（土）の朝は小雨。子供たちがヨーヨー釣りやスパーボールすくいなどのゲームを日陰で楽しめるようにと大テントの設営に始まり、焼き鳥・フランクフルトその他の売店の準備、祭礼用の大忙しと立ち働きの飾り付けなど、年ぶりのお祭りで子供たちは来てくれるのだろうか、心配を口にする方もちらほら。

そんな心配を吹き飛ばすかのように昼からは陽が覗き、今度は猛暑が心配になって来たが、三々五々子供たち同士がグループや親子連れ、中にはかわいい浴衣姿のお子さん

も集まって来られて、太鼓とおみこしの巡行が始まる午後三時には境内は人で一杯になった。その約一時間前には、いつものように國領神社の神主さんにお願いで、おみこしへの入魂とお祭りの無事を祈る神事を執り行ってもらった。

主に小学校低学年までの子供たちが引き綱を持つ太鼓と、高学年生が担ぐおみこしの巡行には、事故の無いようにと調布市消防団第四分団の方々も同行して、九日と十日の両日それぞれ三十分ほどの行程で町内を練り歩いた。以前お祭りに来たことがない子供たちが、巡行に参加した子供たちと、付き添いで一緒に歩いてくれた保護者には、白山宮に帰着した後にお土産が配られるのだ。ゲームや売店で



布田南部自治会長 河江秀俊様
- 心よりお悔やみ申し上げます -

既にごった返している境内に、並んでお土産を受取る列ができて、お祭りの人出は最高潮となり、九日は午後五時、十日は午後四時に終了するまで、白山宮の境内には子供たちの歓声が響き渡っていた。配られたお土産の数から巡行に参加した子供たちは、九日は125名、十日165名、付き添いの保護者は各68名・72名を数え、三年間のブランクは無かったかのような地域のお祭りの復活だった。

なお、永年白山宮の維持管理に関わり、特にこどもみこしの修繕に尽力された、布田南部自治会長の河江秀俊さんが昨年十月末に病氣のため亡くなられた。お祭りの当日には入院されていたため、きれいに修繕されたおみこしを子供たちが担ぐ姿をご自分の目で見ることは叶わなかったものの、こども祭りの復活を大変喜ばれておられたとのこと。ご冥福を祈りつつ、紙面を借りて地域への貢献に感謝したい。（文・藤田秀雄）

朝日 敏幸さん

（あさひ としゆき）



Toshiyuki Asahi

深大寺を開所し、重い障がいのある方を対象に運営している。社協でのお仕事の傍ら、朝日さんがライフワークの一つですと言われるのが、自ら代表を務めるチームコブラの活動だ。始められてからもう三十二年、今年の二月グリーンホールの小ホールで開催するのが二百九十七回目という、何とディスコパーティー。朝日さんらしく「バリアフリーな」という言葉が挿入されている。

三十一年前と言うとジュリアナ東京などに、毎夜若者が詰めかけて大騒ぎをしていた頃。事故で障がい



アトリ



ユキ

ど、朝日さんによれば、「スタツフが介護や支援のことを知らない人達だったのがかえって良かった」そうで、心のバリアフリーを持って参加者全員を巻き込み楽しく盛り上がった。その後、コロナ禍での中断はあったものの、今はジャズとロックのライブハウスとなったお店で二か月に一回、年に一回はグリーンホールなど大きな会場で、バリアフリーなディスコパーティーが続いている。（チームコブラ事務局090-2310-5111）

また、社協が運営を受託している市民活動支援センターに、朝日さんが異動されると相前後して発生した東日本大震災では、市民ボランティア活動のリーダーとして、水木しげるさん作のマンガ遠野物語のご縁で活動拠点を置かせて下さった岩手県遠野市に、ボランティアバスを四十回ほども派遣された。

こうして忙しく活動を続けられた後、二年前に六十歳を迎えられた朝日さんは社協を定年退職されたのだが、ある日偶然通りかかった若葉台の駅近くでヤギのエコ除草を見かけると、すぐにヤギのレンタル会社の社長を訪問、市職員など関係者を説得し、下布田遺跡でヤギが活躍するようになったのだ。

いを負い車椅子生活となった青年から、「ディスコに行きたいのだが、あちこちの会場に電話しても、車椅子では安全を確保できないからと断られてしまった」という話を聞いて、市内の飲食業のオーナーさんが小島町で運営していた「コブラフリーク」というお店で、誰でも参加できるディスコパーティーを店長さんと一緒に実現していった。その行動力は、朝日さんらしさを象徴するもの。

実はこのお店は地下にあり、店内のダンスフロアには更に階段を降りる必要があるなど、とてもバリアフリーに向いているとは言えない設えなのだ。危なっかしいが四人がかりで車椅子を担いで降ろすな

朝日さんのお話を伺って、ご自分の言葉では「社協職員の性」と言われるが、地域の人を巻き込んでみんながハッピーになる機会を、いつも虎視眈々と探していった様子で探していただける気がした。これからもきっと、それを続けていられることだろう。（文・藤田秀雄）